

## 20周年を迎えるミランクラブネパール その3

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン  
理事長 マダ・ブ ナラエン マナングル

ネパールでの活動の20年の間には国を揺るがす大きな事件や政治の混乱があった。王一家殺害事件、マオイストの台頭、王制廃止、デモの頻発、民主化、最近では政党対立による憲法制定見送り等、未だに政治が安定していない。長時間に渡る停電、水不足、燃料不足に国民は苦しめられている。人口増や経済の立ち遅れが学校へ行けない子供たちを増やしている。貧富の格差の広がりも問題である。

当初、なぜ女子だけへの支援なのか、地域の人々からの反発があった。学齢期の兄弟姉妹がいる家庭で姉妹だけ支援を受けるのは不公平になりはしないかと。役員は学校で村々で女子への支援の意味を伝えた。ネパールでは教育支援を行うNGOやINGO団体が多くあるが、支援の大半は男子が受けていて女子への就学の機会が少ないこと、国全体の識字率から見ても女子への教育が必要なことを説明した。女子は嫁ぎ、子を産み、嫁ぎ先の家事労働力となる。ネパールでは男子を最優先に考える習慣があり、貧しい家庭の女子への教育は後回しになることが多い。家の仕事には教育は必要ないという考えは間違いであり、子育てをする母親が自ら教育を受け、その大切さを理解しない限り、各家庭の豊かさや村や地域の発展は望めないことを話した。男尊女卑の風潮や古くからのしきたり、迷信に捕らわれている地域や住民への理解は必要不可欠であった。女子教育への大切さを繰り返し、繰り返し説明した。

都会であるカトマンズでの活動が軌道に乗り、地方で活動を始めるに際し、支部関係者に女性を置いた理由の一つには前述のような対応も必要だったからである。カトマンズでは理解が得やすいが、地方では、よりきめ細かな活動が必要だ。

ご承知のようにミランクラブの中心と

なる二つの柱は里子支援と教育環境整備支援である。里子支援は会員全員でみる会費からの里子奨学金と個人でみる特別里子奨学金がある。教育環境整備支援には職業訓練支援等がある。

ネパールでは、物事は予定通りに運ばない。時間も正確ではなく、一日の予定も停電で中断されてしまう。日本の物差しでは測ることができない。しかし会員の方々に納得してもらえようミランクラブネパールは頑張っている。

西洋の産業革命や日本の明治維新のような近代化を経ていないネパールではネパール独自の発展を考えなければならない。いつまでも外国からの援助を受ける身は辛い。しかし、まだまだ必要だ。国や社会の歩みはゆっくりとしていて、後退しているのではと感じることさえある。都会ばかりが急速な内容が伴わない発展を遂げる。

ミランクラブネパールの地道な活動は日本の会員の皆さんからの支援が励みになっている。

20周年を迎え、皆さんからの支援の有難さをかみしめながら、少しでも多くの子供たちが救われるよう気持ちも新たに活動を続けていく覚悟の役員、コーディネーター、支部関係者である。各々の家族の協力も欠かせない。支援を受け一人前となった里子たちの里子たちへのますますの活躍も期待したい。

ミランクラブネパールでは記念誌発行と日本からの里子訪問ツアーに合わせて記念式典を行う予定をしている。里子たちを中心にダルマスタリ学校では式典の出し物の練習がすでに始まっている。日本からの皆さんの訪問をとっても楽しみにしている。20年の長きに渡り活動を続けられたことを会員の皆さん一人一人に直接会って感謝を伝えたい気持ちである。